

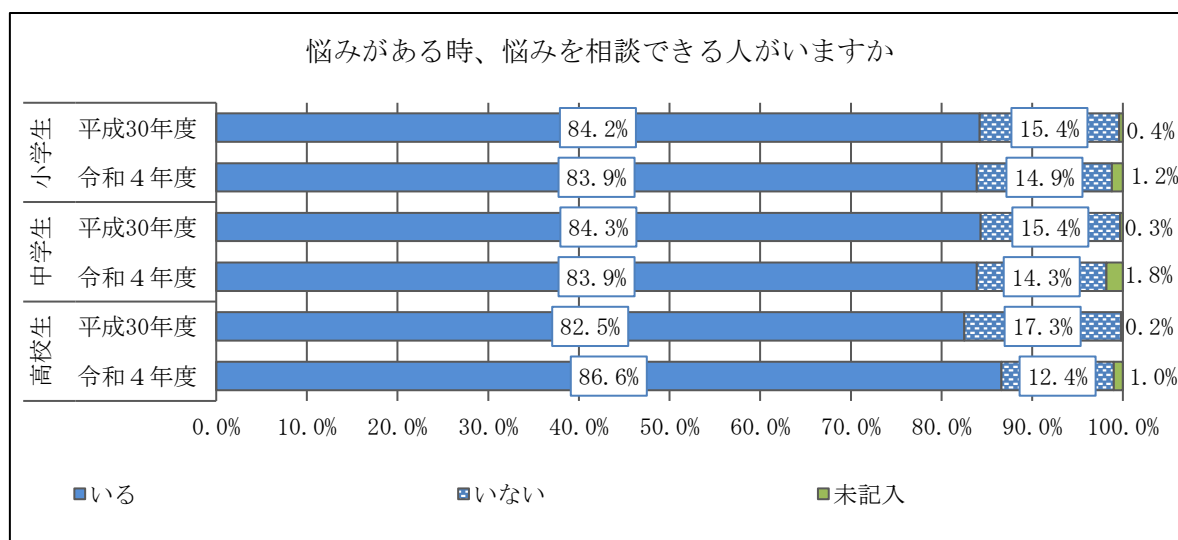
基本目標2 学齢期・思春期の子どもたちが自ら学び行動することができる

取り組み目標 (2) 健やかな心を育む

- ① 相談できる人をもつ、または相談できる場を知る
- ② 困った時に、自ら相談する
- ③ 性に関する知識をもつ

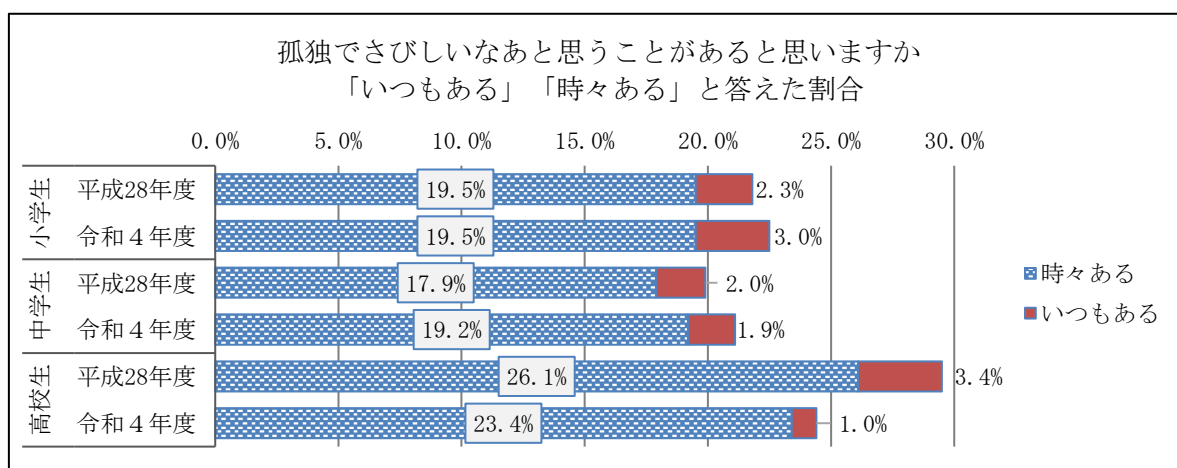
【現状と課題】

市健康づくりアンケートの結果から、「悩みがある時、悩みを相談できる人がいますか」については、小学生 14.9%、中学生 14.3%、高校生 12.4%が「いない」と回答しています。



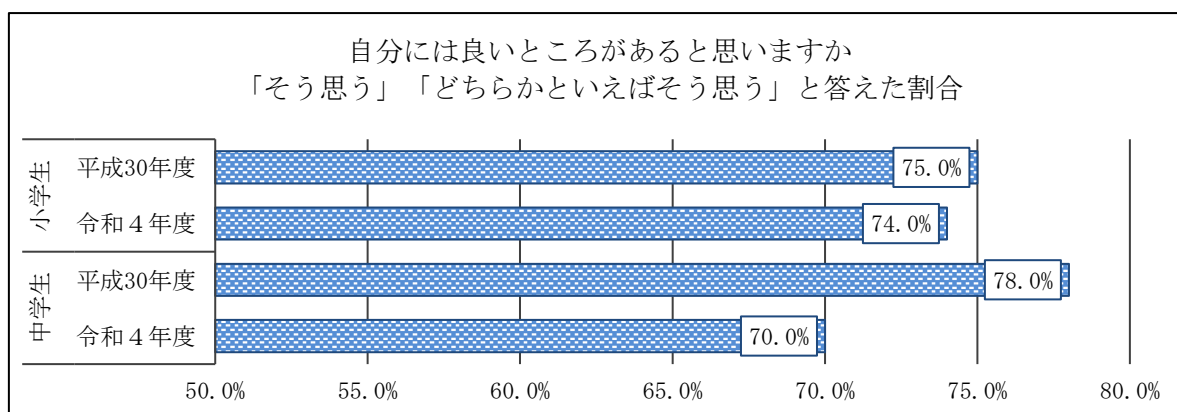
資料：令和4年度健康づくりアンケート

また「孤独でさびしいなあと感じることはありませんか」については、「時々ある」が小学生 19.5%、中学生 19.2%、高校生 23.4%で、「いつもある」は、小学生 3.0%、中学生 1.9%、高校生 1.0%となっており、不安定な心の状態がうかがえる結果となっています。



資料：令和4年度健康づくりアンケート

岩手県学習定着度状況調査の結果から、「自分には良いところがあると思いますか」については、小学生 74.0%、中学生 70.0%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しています。



資料：岩手県学習定着度状況調査

新型コロナウイルス感染拡大の影響により外出の機会が減り、メディアに触れる機会は感染拡大以前より増えたと考えられます。テレビや携帯端末、ゲーム等をする時間が増えることは、一人の時間が増え、家族や友人とのコミュニケーションが不足することにつながります。子どもたちの孤立を防ぎ自分を守る術を身につけさせるためにも、相談先を周知し相談する環境を整えていくことが課題となっています。

市内のすべての高校で産婦人科医師や保健師による思春期保健講話を行ったことにより、十代の人工妊娠中絶数は減少傾向にあります。引き続き望まない妊娠を避けるための取り組みが必要です。

奥州市十代人工妊娠中絶数 (人)

年度	合計	15歳未満	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
平成26年度	12	0	0	0	2	4	6
平成27年度	9	1	0	0	2	3	3
平成28年度	10	0	1	1	0	2	6
平成29年度	9	0	1	0	0	4	4
平成30年度	12	1	0	3	1	1	6
令和元年度	7	0	0	0	1	4	2
令和2年度	5	0	1	0	0	1	3
令和3年度	7	0	0	0	1	2	4

資料：岩手県保健福祉企画室

【目指す姿】

- 相談できる人をもつ、または相談できる場を知る
- 困った時に、自ら相談する
- 性に関する知識をもつ

【方向性】

困ったときに相談できる相手がいること、相談機関等を知っていることは、特に不安定な思春期の時期には大切なことです。新型コロナウイルス感染拡大により生活様式が大きく変化したことも影響し、ネット依存（ゲーム障害）やうつ病が増えるなど、子どもたちのところへの影響は非常に大きくなっています。感染が落ち着いたとしても、皆が同じように回復するわけではなく、今後も子ども達のところへの支援は必須です。自分自身を認め大切にするには他者を認め思いやることに繋がります。自分を肯定的にとらえることで何らかの困難に出会った時に自らそれに対応し、誰かに相談しながら解決に向かうことができるよう支援していく必要があります。これまで中学生を対象に精神科医師による講演会を行ってきましたが、対象を小学生まで拡大しお互いの命を大切にする、相談することの大切さを伝えていきます。

また、子ども達が成長過程において適切な時期に心と体についての正しい知識を身につけることにより、心身ともに健康で過ごし成長していけるよう、今後も学校や医療機関等の関係機関と連携していく必要があります。

このことから、中学生、高校生を対象とした産婦人科医師による思春期講話においては、性に関する正しい知識を身に着けるよう継続して実施していきます。さらに、保健師による思春期保健講話では命の大切さ、性の多様性、自分も自分以外の人も大切にするを基本に、性行動に主体的に選択できる力を育み、将来の健康的な家庭生活に向けて行動できるよう支援します。

【活動（対策）】

住民が自分でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる人がいる ・相談できる場を知る ・自ら相談する ・相談を受けた時の対応を学ぶ ・性に関する知識を持ち、主体的な行動をとる
みんなが協力してできること	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや学校の先生等、相談できる体制 ・学校保健委員会
行政が果たすべきこと	<p><新規・強化事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携（*SOS の出し方に関する教育） ・相談先の周知 ・奥州医師会産婦人科医会との連携 ・こども家庭課との連携 <p><継続事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期医師講話、思春期保健講話 ・思春期保健連絡会 ・命の大切さを考える講演会

*SOS の出し方に関する教育とは

学校において体験活動、地域の高齢者等との世代間交流等を活用するなどして、児童生徒が命の大切さを実感できる教育に偏ることなく社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育（自殺総合対策大綱）

【成果指標】

項目	データベース	対象	基準値 (R4)	目標値 (R10)
悩みを相談できる人がいる子どもの割合	健康づくりアンケート	小学5年	83.9%	90.0%
		中学2年	83.9%	90.0%
		高校2年	86.6%	90.0%
性に関する授業を聞いて知識が深まったと感じた子どもの割合	思春期保健講話アンケート	中学生	未把握	増やす
		高校生		
自己肯定感をもった児童生徒の割合	岩手県学習定着度状況調査	小学5年	74.0%	80.0%
		中学2年	70.0%	75.0%